コースの概要と人材養成のねらい

多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を探究させ、「チーム学校」の考えに基づき学校内・外の関係者と協働して実践を展開できる教員を養成します。そのため、子どもを取り巻く多様な援助ニーズに対して、協働的に援助する実践力を備えるとともに、現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題を視野におさめ、社会環境と個人の関係性を考慮した援助のあり方を修得することを目指します。

配当学年	開講期	(DP1) 学校教育の発展的理解	(DP2) 指導内容の高度な理解と実践的指導力	(DP3) 多様な子どもに対応できる指導力	(DP4) 教職力量をみがぐ力
		<ul style="list-style-type: none"> 社会における学校の役割と専門職としての教員の在り方を理解し、学校教育の発展に寄与する自己の役割を俯瞰的に捉えることができる。 学校安全と危機管理、人権教育、多文化共生などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 学校の実情や特徴を分析・把握し、より良い学校づくりに向けたアクションプランを実施・評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 子どもの発達や子ども間の関係を把握し、子ども一人ひとりの援助ニーズを踏まえ、指導計画を作成することができる。 子どもの様々な背景を考慮して子どもの援助ニーズを汲み取り、教育課程・内容や個別の支援に反映できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校における生徒指導上の諸課題について、多様な個人的・社会的背景をふまえて多面的に理解し、理論的・実践的に考察できる。 各学校種の諸課題に関して、発達段階や個人の特性・障害、状況に応じた指導ができる。 児童生徒の多様な課題に対し、学校内外の人材や組織と協働して、社会的包摂に向けて支援・援助を行うことができる。 【スレートマスター学生】 子どもの教育・保育上の様々な課題をアセスメントし、学校内での支援を構想できる。 援助に必要な子ども、いじめ、不登校に関係する子どもについては、校園内外の専門家との連携を構想できる。 個々の子どもの援助ニーズに応えつつ、子ども全体への予防教育的な活動を構想できる。 【現職教員】 子どもの教育・保育上の様々な課題をアセスメントし、校園内外の専門家や保護者と連携しながらの援助を構想できる。 子ども一人ひとりのニーズに応えるだけではなく、その学校の子どもに共通して認められるニーズについては、深刻な問題にならないように予防に取り組むことができる。 援助に必要な子ども、いじめ、不登校に関係する子どもについては、校園内外の専門家や保護者と協働しながら援助できる。 個々の子どもの援助ニーズに応えつつ、子ども全体への予防教育的な活動と関連させ、子どもが学びあい支えあう関係をつくることできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。 教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあひの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。 組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方、コンプライアンスの重要性を再認識し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。 子どもの援助ニーズを汲み取るための、多様な視点と様々な方法を理解し、さらにそれらの共有の仕方や職業上の倫理を理解している。 学校園などの組織の全体の動きや、学校種間の連携・協働の必要性を理解し、それぞれの機能とニーズを理解する。
M2	T4				学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造[2]
	T3			社会的包摂に関する実践的探究[2]	多職種協働による組織マネジメント[2]
	T2				外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ[2] 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践[2]
	T1	学校安全と危機管理[2](T1柏, T2天) 人権教育の課題と実践[2]		共生社会をめざした協働的援助[2] 学校危機における援助ニーズ[2] メンタルヘルス課題の理解[2] 就学前の援助ニーズへの多様な支援[2]	エビデンスベースの学校改革[2]
M1	T4		保護者との協働的援助[2]	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援[2]	研究科共通科目 太字は必修
	T3	外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ[2] グローバルスタディーズの展開[2]	カリキュラムの編成原理とマネジメント[2](天)		研究科共通科目 (FS対応科目) 太字は必修
	T2			子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践[2]	実践課題研究Ⅰ・Ⅱ[計4]
	T1	学校経営と学級経営の理論と実践[2](T1柏, T2天) 外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ[2] インクルーシブ教育の理論と実践[2]	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践[2] カリキュラムの編成原理とマネジメント[2](柏)	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ[2] 学習指導の実践的展開[2]	学校実習科目[計10]
			生徒指導と教育相談の実践的課題[2]		コース科目 必修 コース科目 選択

※科目名の [] 内の数字は単位数